

小山市事務事業評価シート

令和元年度版

No. 31

1. 基本情報				
<1> 事業・業務名	はとむぎ料理教室サポート事業		<2> 事業・業務の別	事業
<3> 選定基準	③ 平成30年度に新しく開始した事務事業		<4> 継続評価/新規評価の別	新規評価
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	7 豊かな大地と伝統 めぐみをはぐくむまちづくり	<6> 担当部(局)	産業観光部
	中項目	7-1 田園環境の保全と農業の活性化	<7> 担当所属	農政課
	小項目	7-1-1 農業・都市と農村交流・グリーンツーリズム	<8> 担当係等	農政・食育係
	施策	多様な流通・販売の促進		
<9> 根拠法令・計画等	第4期おやま地産地消・食育推進計画	<10> 関連・類似事業		
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目	2 款 1 項 7 目
<13> 実施期間	年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	千円	
<15> 実施手法	補助金・負担金・貸付金等		「その他」の場合 ()	

2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要	はとむぎ料理教室の開催を希望する団体に講師(はとむぎマイスター)を派遣し、実習で使用するはとむぎを提供する。								
目的	<17> 事業・業務の目的	はとむぎ料理を普及する。							
	<18> 事業・業務の対象	小山市に住所を有する団体							
手段	<19> 平成30年度の活動内容	サポート事業を普及し、講師(はとむぎマイスター)を派遣する							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		利用件数	件	0	0	10	8	80.0%	
	イベントにおけるPR	回	0	0	4	6	150.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	受講者数を増やし、はとむぎ料理を普及する							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	受講者数	人	0	0	200	212	106.0%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	平成29年度		平成30年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		事業費等	千円	0	0	200,715	135,166	67.3%	
		財源内訳	国・県補助金	千円			100,000	67,226	67.2%
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円			100,000	67,226	67.2%	
人件費	千円	0	0	715	715	100.0%			
正職員	千円 × 人役	×	×	7,146 × 0.1	7,146 × 0.1				
他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×				

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	1.増大している
	有効性	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1.妥当である
		<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある
	効率性	<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか?	2.中位
<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?		1.向上の余地はある	
公平性	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?	1.検討可能である	
	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	1.妥当である	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由	はとむぎの認知度が高まっているなか、実際の使い方がわからないという意見が多く、今後益々需要が増えることが予測されるが、本事業の認知度が低く、まだまだ知られていないため利用件数が伸びなかった。出張所や学校等への周知を強化し、利用件数の増加を図る。

4. Action - 改善 -

事業の改善	<34> 事業の課題 事業の改善点 今後の方針	平成30年5月から事業運用を開始する予定が、必要書類の作成が間に合わず周知が遅れた。また、選択できるメニュー数が10品しかなく、選択肢の幅が狭かったことが魅力に欠けていた。募集要項や申請書等の書類を整備し、4月から募集開始できる体制を整える。また新メニューを導入し、選択肢を増やすことで魅力向上を図る。		
	<35> 1次評価	所属長	1.拡大	理由 平成30年度から内閣府の戦略的イノベーション創造プログラムに小山市のはとむぎが選定され、健康効能実証研究における健康効果が示唆されたことを受け、注目が集まるなか、市民へのはとむぎ活用法を広め、消費拡大につながる本事業の継続実施は必須である。利用件数増大にむけ、周知の徹底や内容の工夫を検討する必要があると考える。
事業の方向性	<36> 2次評価	所管部長	1.拡大	理由 対象を市内の団体と定めているが、将来的には市外への派遣・活動が広まるよう、計画的な講師(はとむぎマイスター)の養成および制度の見直しが必要と考える。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<37> 実施計画	・はとむぎ料理を学ぶために教室を開催する団体の求めに応じて講師を派遣する。 ・本事業の認知度向上を図るため、各種イベントに出展し、PR活動を実施する。				
	<38> 活動・成果目標	・利用件数の増加 ・受講者数の増加	<39> コスト計画	単位	令和元年度	令和2年度
				千円	7,326	7,326
			事業費等	千円	180	180
			人件費	千円	7,146	7,146